

第5回 昭和橋景観検討委員会 議事録

令和元年10月10日（木）18:00～19:30

住田町役場 1F 町民ホール

【司会（次長）】

それでは、定刻となりましたので、只今から第5回昭和橋景観検討委員会を開会いたします。私は、本日司会を務めさせていただきます、住田整備事務所次長の佐々木と申します。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、事務局を代表して、住田整備事務所、所長の佐藤よりご挨拶申し上げます。

【所長】

本日は大変ご多忙のところ第5回昭和橋景観検討委員会にご出席いただき深く感謝申し上げます。まず委員の皆様におかれましては、台風による交通機関の乱れも心配される中、委員会にご出席していただき、深く感謝申し上げます。

さて、昭和橋景観検討委員会はこれまで4回開催され、委員の皆様の大変貴重なご意見をもとに、周辺との調和に配慮した住田らしさをコンセプトに設計を取りまとめまいりました。本日の委員会では、これまでの委員会でご議論いただいた内容をおさらいすると共に、昭和橋とその周辺のデザインの詳細などについて実物大のサンプルをお示ししながら説明することとしております。それでは本日はよろしくお願いいたします。

【司会】

それでは、これから議事に入らせていただきますが、議事に入ります前に、配布資料の確認をさせていただきます。資料の確認でございますが、本日の資料として委員会次第、パワーポイント説明資料A4版を委員の皆様のお手元にお配りしております。不足はございませんでしょうか？よろしいでしょうか？本日の説明につきましては、お手元の資料のほか、前面スクリーンの映像を使いまして説明を行っていきたく思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは議事に入らせていただきます。当委員会の規約第6条の第2項によりまして、委員長が議長を務めることになっておりますので、以後の議事進行につきましては、柴田委員長にお願いしたいと思います。柴田委員長よろしくお願いいたします。

【柴田委員長】

それでは、よろしくお願いいたします。第5回昭和橋検討委員会をこれから始めて行きたいと思いますが、今、所長からのお話もありました通り、第4回までの皆様からのご意見をもとに協議を積み重ねまして、今回はおさらい、最後の委員会となりますので、今日も忌憚なくご意見をよろしくお願いいたします。

それでは早速議事の方に入らせて頂きたいと思います。本日は最後のとりまとめの会ですので、昭和橋の周辺デザインのまとめとして一気に事務局の方から説明していただきたいと思います。それではよろしくお願いいたします。

【事務局】

本日の構成
設計プロセスとスケジュール
昭和橋および周辺デザイン
橋詰空間および護岸細部
親柱デザイン
高欄実物大サンプル
昭和橋と周辺デザインのまとめ
今後の検討について
事業概略スケジュール
新橋の橋名について
架橋時のイベントについて

【柴田委員長】

ありがとうございました。大変、細部までご検討頂いたと思います。またこのような実物大のサンプルを作って頂き、みなさんで実物を見ながら最後の確認ができればと思います。ただいま事務局からご説明頂いた内容の全体を通してのご意見、ご質問、またこれまでの協議プロセスに対する感想等でも構いませんので、何かございますか。

【委員】

2点伺いたい。1点目は、旧橋の高欄の使い方をモニュメントとして扱うとのことだが、そこがあれば橋の上にある高欄と同じように、人が寄りかけたり、腰掛けたりすることも十分考えられると思う。転落防止柵としてではないという考え方であれば、そのようなことに対する対応はどうするのか。倒れてもしょうがないと思うのか、それとも倒れないようにするために何か工法を検討しているのか。

2点目は、転落防止柵の比較表の中で、第2案の安全性が◎になっているが、他の案と大差がないのではないか。この◎はどのような考え方なのか。

護岸排水の提案は、非常に良かった。

【事務局】

旧橋の高欄をモニュメントのように扱うと記載しているが、高欄が転倒してしまったりしてしまうと、足を挟んでしまうような事故が起きることも考えられる。そのため高欄が転倒しないように土の中に基礎を埋めて、そこに高欄を鉄筋で接続すること等を考えている。よくあるガードレールと同様の構造である。安定計算は基準にもとづいて、水平荷重に対して耐えられるようにする。高欄の強度は別のピースで試験を行い、強度確保の確認を行う。ただし今の高欄の強度が不明であるため、もしかしたら接続位置に金具等が出てきてしまうことがある。

転落防止柵の比較案は、いずれも定められている基準を満足している。第2案の転落防止柵の安全性が◎の理由は、一番上のレールが内側に傾いているためである。若干、内側に傾いていることで、登ろうとしたとしても登りにくい。乗り越えづらい形状という点で評価している。

【委員】

右岸上流側に旧高欄を、右岸下流側に案内板と石碑を配置しているが、その理由はなにか。

【事務局】

旧高欄を右岸上流側に配置した理由は、旧高欄の奥に対岸の蔵並みを見ることができるためである。逆に下流側に配置してしまうと、旧高欄と蔵並みの間に新しい橋が入ってしまい、障壁ができてしまうためである。

案内板と石碑を下流側に持ってきた理由は、これらを1か所に集めておくには右岸側のスペースが狭いと思っているためである。特に右岸上流側には、今ある桜の木よりも多めに高木を配置したいと考えており、ここに更に石碑と案内板を配置すると煩雑になりすぎる可能性がある。

【委員】

旧高欄と左岸側の蔵並みを眺められることは非常にありがたい。私どもは昭和橋と蔵並みは一体であるという認識をもっているため、もし高欄と蔵並みを一緒に見せたいというのであれば、それに伴う案内板も一緒に配置していただくとありがたい。そうすれば、来ていただける方々にも案内がしやすくなる。

【柴田委員長】

観光ボランティアをするうえでも、案内板が配置されている方がやり易いと思う。今ある案内板は移設するのか。

【事務局】

工事の時に一旦、取り外さないといけない。

【委員】

右岸上流側に案内板を置いて、案内板を見ながら旧高欄と蔵並みが見えた方が良い。橋詰め空間の舗装は、そこに桜、案内板、石碑等が配置されるのに、アスファルト舗装でよいのか。もう少し自然に近い土とかはどうか。橋詰のところは段差をつけるようだが、車いすの方々が見るためには、どこからか入れるように傾斜を設けた方がよいと思う。

【事務局】

切り下げを設けて車いすが入れるようにすることはできる。その際の幅や位置等については、精査が必要で、引き続き検討を進めていく。舗装は管理の問題がある。土や草地にすると、水がたまったり凸凹ができたりするが、これについて日常、誰がどのように管理していくのかという大きなハードルがある。

【委員】

パースを見ると旧高欄が柵に見える。柵に見えるとつまらないし、旧高欄のメモリアルということであれば、それ相応の設えが必要となる。例えば高さ 800mm であることもストーリーがあるわけだし、親柱もいらぬのかなど思ったりもする。旧昭和橋の写真であったり、高欄高さの 800mm であったとか、銃弾の跡があったりなど、そういう説明を案内板でちゃんとした方がよい。旧高欄の案内サインが必要だと思う。

桜の下にベンチのようなものがあれば、旧高欄を眺めるような視点場となる。旧高欄は柵ではなく、見せるものという仕掛けが必要である。

以前、親柱の表面の仕上げは水磨きと聞いたが、今の親柱のイメージから、あまりピカピカと光

らない、例えばビション、たたき等の表面処理が良いと思う。

照明はアクリル板ということだが、ここまで仕上げをこだわってきたのであれば、アクリルではないのではないかと。ガラスにして欲しい。それと親柱のてっぺんには高欄と合わせた金属板、リン酸亜鉛処理のダークグレーとかを使ってみたらどうか。

橋名は、もし仮に昭和橋という名前になれば、現在の橋名板を使うこともありえると思う。新設で作るにしてもブロンズのような、現状の橋名板と同等レベルの質感が良い。仕上げで雰囲気を作ってほしい。

【柴田委員長】

せっかくモニュメントとして旧橋の高欄を残して、その横に案内板が行くのであれば、今の案内板に旧橋の歴史の情報も付加した新しい案内板を作り直してもよいと思う。

【事務局】

親柱の表面仕上げについては、ご意見を踏まえて更に検討していきたいと思う。灯具のガラスについては、コストも含めて検討していく。頭部のひさしについては張り出しがないような形状が実現可能なのか検討を進めている状況である。また頭部の灯具に傘等が届く位置にあることから、安全性等も踏まえて検討している。

【柴田委員長】

アクリルで進めるにしても、目立ってくる場所なので、そこだけが安っぽくならないように細心の注意をはらっていただきたい。

【事務局】

アクリル板は10mm程度以上のものを考えていたので、ペラペラな感じではない。

【委員】

10年したらガラスとは質感が全く変わってくる。ガラスは四角形にすると高いが、板ガラスの組み合わせであれば、そんなに高くないので検討してほしい。

【委員】

左岸上流側の樹木は何を想定しているのか。

【事務局】

桜類を想定している。

【委員】

桜であれば、横に根が張るので将来的に問題にならないのか。右岸の桜の根本の処理についても、コンクリートにすると根が暴れて悪さをしないようにしなければいけない。緑の管理が大変だという話もあるが、その辺のバランスも大事ではないか。椅子やベンチを置くと、また管理が大変だという話があるかもしれないが、人がここに佇めるような設えが必要と思う。

縁石の立ち上げだけでなく、車止めとかボラードも検討の余地があるのではないかと。

勾配があると立ち止まったときに姿勢をキープするのが大変なので、ある程度フラットな場所をつくってあげる配慮も必要である。この辺については親しみのある空間をつくるために検討をしていただきたい。

旧高欄は、端のコバ面、切断面をどう処理するのかで安っぽさが決まると思う。たとえば、「切り出した所にヒビが入ったのでコンクリートで養生しました」みたいな感じだと、そこだけ色が変

わってしまう。逆にそこに親柱を置いてあげたりすることでもよいのではないか。その際、橋名板や照明も合わせて持ってきてもよい。桜の下側から上に向けて照明を配置してもよい。まだまだデザイン的な工夫も考えられることから、引き続き検討を進めていただきたい。

転落防止柵を支えるコンクリート基礎の幅は小さくして欲しい。

橋名板を新しく作るのであれば、たたら製鉄の技法で、住民参加的な方法も考えて欲しい。

高欄はメンテナンスフリーなのか維持管理が必要なのか。普通の高欄は、かなり塗り替え等をしななければいけないのではないか。

【事務局】

リン酸亜鉛処理はメンテナンスフリーである。メンテナンス費用は塗りに関しては、かからない。

たたら製鉄、転落防止柵の基礎の幅については気を付けて検討していく。

旧橋の親柱利用は、委員会でご意見を聞かせて頂きたい。旧高欄の両脇に親柱を配置してみると印象が強くなりすぎる懸念があった。そもそも移設できるかという問題もある。

【柴田委員長】

存在感が強すぎるということか。

【委員】

旧高欄と親柱のバランスもあるのではないか。旧高欄は4スパンだと本格的すぎるので、その半分の2スパンでよいのではないか。メモリアルということであれば、親柱の方が重要ではないか。

【柴田委員長】

右岸側についてはランドスケープデザインという点において、まだまだデザインできる。たとえば下から桜を照らすアップライトであったり、ちょっとした平地などがある。桜の下には植栽マスを配置するのか

【事務局】

植栽マスは配置する。

【委員】

親柱を1個だけ配置するということはどうか。

【委員】

親柱のメモリアルは2個あるとしつこいので、1個でもよいと思う。それも新橋の親柱を邪魔しないように、新橋の反対側に配置するのが良い。

【柴田委員長】

委員会としては、親柱を片側1個とする原案を基本に検討を進めてもらうということでよいか。

【事務局】

いままでの委員会のおさらい

昭和橋の架け替えが必要な理由

デザインコンセプトの提案

デザイン方針の設定

架橋位置の検討

幅員構成の検討

モチーフとテーマが異なるデザイン案の検討

上部工形式の検討

下部工形式の検討

護岸の検討

高欄・地覆のデザイン

親柱のデザイン

照明のデザイン

排水・縁石ブロックのデザイン

橋詰空間の検討

フォトモンタージュ

【事務局】

事業概略スケジュールとして、現在、詳細設計を実施中。設計完了後の用地調整等に半年～1年、工事は3年程度を見込んでいます。

新橋の橋名は、今決めるというやり方もあると思うが、完成に合わせて全体を盛り上げていくということで、橋の完成に合わせて実施したい。その方法は、現在の橋名、昭和橋も含めて広く住民から公募したいと考えている。また選考についても住民の方に入ってもらって町長に答申したいと思っている。

架替え時のイベントは、解体イベントを検討中である。開催時期は解体に合わせて実施する予定である。イベント内容として、一つ目は夢灯りを実施したい。ろうそくに火を点灯して橋に飾る。ろうそくを囲む絵は、幼稚園児等に描いてもらうことを考えている。二つ目は写真か絵画を小学生等に描いてもらうことを考えている。

【柴田委員長】

全体を通して、他に何かあるか。

【委員】

今までの委員会では、橋の横にある電線は無くなるということであったが、それについては変わりはないか。

【事務局】

変わっていない。

【委員】

今回、引き続き検討という項目がいくつかあったが、その項目についてはどうするのか。

【事務局】

検討の結果に関しては、委員長をはじめ委員の皆様へ報告、個別相談することを考えている。必要であれば、全体委員会を行うかもしれないが、現状では考えていない。

【柴田委員長】

それでは議事は終了です。今回で5回目ですが、皆様方のご協力、ご尽力によって住田町民の皆さんが愛着を持つ昭和橋を引き継ぐ大変すばらしい橋にたどり着いたことと、ここまでの事務局の皆様へ感謝申し上げたいと思います。これからも橋の景観を盛り上げていきたいと思います。これをもって昭和橋景観検討委員会を閉会したいと思います。

【司会】

大変ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、熱心なご議論をいただき、大変ありがとうございました。

以上を持ちまして、本日の委員会、及び平成30年9月6日に発足し実施して参りました「昭和橋景観検討委員会」につきましても本日をもって閉じたいと思います。誠にありがとうございました。